



かけ橋とは…

- 農地と担い手をつなぐ…
- 現場と農政をつなぐ…
- 消費者と農業者をつなぐ…
- 農地と農村をつなぐ…
- 次の世代と農業をつなぐ…

かけ橋



J Aみなみ魚沼青年部を楽しむ

J Aみなみ魚沼青年部

委員長 高橋 英人



南魚沼は若手農家の勢いや活気が凄い。これ程元気のある若手が多い地域は他にないのではないかと思います。

J Aみなみ魚沼青年部は管内の若手農家と若手J A職員を合わせて76名からなる組織です。主な活動は、南魚沼産コシヒカリの栽培、県内外のイベントでのP R活動です。

米の栽培は、水田を借りて勉強田とし、新しい肥料や農薬の試験、農業機械の試乗などを行います。個人では行えない所を試験的に行い、部員同士の意見交換をしながら自分たちの農業に生かしていくことができます。

P R活動は、東京、仙台の農業祭などのイベントに参加して、米をはじめとした特産品を販売してきます。直接お客様と接することで気づくことも多く、また他の地域の農業関係者と交流を持つことは刺激を受けます。

昨年は新たな活動として、行政からの依頼で発足した南魚沼産コシヒカリP Rを目的とした「農／KNOW T H E FUTURE」プロジェクトにも参加しました。市内の他の農業団体や農業者、若手クリエイターと協力して動画やポスターを作成して県内外にP Rしました。行政や他分野の方と一丸となって農業を盛り上げることができたことは本当に良かったと思います。

「農業を楽しむ」は、農家仲間の言葉で一番好きな言葉です。大変な仕事でさえも楽しむ、J A職員でも農家でもこれはとても大切なこと。J Aみなみ魚沼青年部はそんな楽しさを伝えていける組織でありたいと思っています。そのためにはまず自分たちから楽しみましょう。

南魚沼市農業委員会へのお問い合わせは

電話 025-773-6664 FAX025-773-6710

E-mail nouchi@city.minamiuonuma.lg.jpまでお願いします。

「西瓜作りに思うこと」

金井千春 「八色原」



西 瓜の育苗を

やっつけて、一日のなかで雪が降り太陽が出て風が吹くことは春の天気では

当たり前のことですが温床管理の中では一時も目が離せない状態となります。天気に翻弄される様子はまるで一年の縮図を垣間見るようです。

種の発芽率、接木の成苗率を合わせ、その分の種を多く蒔きそれに伴い温床面積を余計に、電気も余計に、ハウスも余計にと原価計算をしたら買った方が良くということなるのです。40年作ってきてはまだ解らない所も多く、突き詰めてもつと理解するまではと思っています。

減反政策に伴い西瓜の作付面積は増えてきたのですがここにきて廃止の方向になり、反収の少なくなつた水稲を作るべきかリスクの大きい西瓜を作るべきか迷うところです。昨年、条件の悪い所を水田に戻しま

した。条件さえ良ければ西瓜を作りたいのですが近年の気象条件に対処するとなれば圃場の選定も重要かと思えます。英断となるよう体力の続く限りやりたいと思います。

一年一回きりの中で一緒にやっている娘からそれが良いと解っているのだったらやればよいと言われ、やってみたら目から鱗の結果になりました。固定観念が覆ったことがあります。若い柔軟な考えの大切さを痛感しました。次世代につなぐためにも常に探究し結果を導きたいと思えます。

「美味い！十全茄子」

若井新一 「津久野上新田」



会 社を退職後、

農業では「稲作」と「新潟黒十全茄子」を栽培しています。稲作は今ま

で、多くの方が寄稿しておられますので、今回は「茄子づくり」について触れます。

在所でも、自家用として殆どの農家が茄子を作っています。茄子には様々な種類があります。私は「新潟黒十全」を栽培しています。味は抜群ですが、少ししかならないのが、最大の欠点です。が、様々な料理の具として使え人気が高いので、老骨に鞭を打ち栽培します。茄子は連作

に弱くすぐに枯れますので、是非ご用心を。トマト、じゃがいも、ピーマンも茄子科なので、これらの後も避けます。5月中旬に苗を約60本、高い畝を作つて植えます。6月末頃から実を取り始め、延命策を施すと10月末まで食することができます。

「山ほど植えて、どこへ出荷するのか」などと聞かれます。私は趣味の園芸ですから、友の「東京の酒場」へ出す以外は、子どもや親戚にプレゼントです。また「俳句」をしているので、俳友にも贈呈します。「加茂茄子」よりも美味とか、過分なお褒めに与ることもあります。栽培方法はパソコンにあり、作り方を聞きに来た方には、一通り講釈した後、最後に作り方の印刷物をお渡しします。

「山村農家の独り言」

中澤 修 「宮野下」



今 まで、祖先から預かった田んぼ等の農地を手放さな

ように深く考えず、に毎年、田んぼに米、畑には少しの野菜を育てながら、生活の糧は地域の小さな会社で求めている。今、周りを見れば、米が安く機械が買えない、草刈りが大変だ、耕作の引き受け手がない、

このような農業は子どもにはさせられない。などと考えている人は私だけではない現状かと思えます。

このような結果か、私が住む山間地域の特に山沿い付近では耕作が放棄された農地が年々増加していたり、地域の高齢化が進み耕作を辞めたい等の話をよく聞くようなこの頃、地域維持が難しくなる状況が静かに進み、やがて将来は地区の崩壊を招くのではないかと心配です。

また、現在国家の危機と言われているコロナウイルスの蔓延も自然環境に逆らう多量の農薬散布の結果かもしれない。

今、農業の将来に関わる政策については、農家の後継者維持確保、経営体質の強化のための大規模機械化などの効率化、また栽培作物の多角化等経済課題を主としていると思われますが、山間地を特に多く抱えた当山村地域にとって有効な農村維持策か甚だ疑問を感じます。

今後、希望の持てる農業課題として農産物を食料から植物素材として視ていく事や自給率変革政策の必要性を強く感じる人は多いと思えます。今後も水源、農道維持等の広域地区活動参加等を通じ、大規模工業地域を支える裏方山村地域の地区民と共に永久の住処としての今後の希望のあるふるさと地域創りを考えていきたいと思えます。

認定農業者との意見交換会 (開催報告)

去る2月22日(土)午後2時30分から令和元年度認定農業者と農業委員会との意見交換会がホテル坂戸城にて開催されました。当日は来賓に新潟県農業会議、JAみなみ魚沼、新潟県南魚沼地域振興局農林振興部、南魚沼市農林課の方々よりご出席いただき、認定農業者18名、農業委員及び農地利用最適化推進委員21名が参加し、総勢53名の意見交換会となりました。

今年の講演は、新潟薬科大学名誉教授の及川紀久雄様をお招きして『薬学の視点から見る農業』と題して農作物の農薬及び病害虫と土壌成分との関連性などを紹介していただきました。その後の意見交換では認定農業者の方々より昨今の異常気象による農作物不作時の対応と、今後の担い手不足解消のための活動について、農業委員及び農地利用最適化推進委員のさらなる期待と活躍を要請されました。



また、農地中間管理機構と補助金についての質問や越前地区認定農業者の方からの地域の事例紹介など、活発な意見交換が行われました。

また第2部の懇親会では、皆さん笑顔と笑いの中、さらなる情報、意見を交わして大変盛況な会となりました。

最後にご参加いただいた認定農業者の方々、関係機関の皆様へ感謝を申し上げます。

(駒形哲也委員)

農業委員会事業についてのお知らせ

令和2年度に計画していました農業委員会事業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、下記のとおりとさせていただきます。

1. 中止するもの
 - 食育出前授業
 - 青年農業者との懇談会
2. 開催について、南魚沼市の方針・今後の状況等により判断し、改めてお知らせするもの
 - 女性農業者との意見交換会
 - 認定農業者との意見交換会

現況届は忘れずに提出してください！

農業者年金の現況届は毎年、5月下旬ころに直接受給者本人へ郵送されます。年金を受給されるには必要な手続きですので、忘れずに提出してください。

【提出期限・提出先】

6月30日(火)までに農業委員会(本庁舎)、または大和・塩沢庁舎の市民センター窓口へ提出してください。

【提出にあたって】

●経営移譲年金・特例付加年金を受給している方

平成29年分の現況届からアンケートの欄が追加となりました。農業経営を再開していないことをお確かめの上、アンケート欄・氏名などを記入して、農業委員会へ提出してください。

●農業者老齢年金を受給している方

現況届に氏名などを記入して、農業委員会へ提出してください。

コラム 一寸一服

手前味噌な話

昔、味噌は自分の家で作るものだった。決して、手前味噌と言える代物ではなかったことを市販品を食べて気が付いた。で、市販品の世話になる期間が続いたが、数年前、女房が農協女性部に加入したことから、自前の味噌が復活した。

これで、手前味噌の謂われを知ることになった。美味しいのである。それも、味噌に五月蠅い友人が金賞評価したほどだ。まあ、口は重宝とも言うが。これも女房のお陰、イヤッ農協さんのお陰である。

手前味噌な話と言えば、漬け物があった。のろけ半分な漬け物自慢は好かれませんが、「あこのかあちゃんの漬け物がうんまくてさ」よそを褒め過ぎるのも良くないと言われた。

子ども達が「お母さんの料理が美味し」と手前味噌を言い合っつのは微笑ましいものだ。最近では、「お袋の味」ところか「袋の味」、朝食にご飯を食べない家庭が増えているとも聞く。食育の観点からも、朝ご飯はしっかり食べて欲しいところだ。

その点、我が家の孫は朝からしっかりと飯を食べる。その上、「じーじのお米は美味し」と嬉しう言葉をつけてくれる。お米を手前味噌で言っつのは心苦しいが、孫が喜んで毎日食べてくれる米こそ日本一だ、と思う。

《広報も筆のあやまろ》

令和2年度の農法第3条申請における下限面積設定について

農地の売買や貸借に関する農地法第3条の申請については、権利設定の基準となる「下限面積」を今年度も30アールに設定します。

この件については南魚沼市農業委員会令和2年3月総会にて定められました。

※農地の売買や貸借を希望される方は、農業委員・農地利用最適化推進委員または農業委員会事務局までご相談ください。



農地の貸借、所有権の移転等は農業委員会へ

- 申請・届出は締切日までに全ての必要書類が整うように、早めに準備を進めてください。
- 行政書士ではない者が、官公署に提出する書類の作成を業として行うことは、法律で禁じられています。

申請月	申請締切日	総会予定日	開会予定時間	総会会場
6月	6月10日(水)	6月25日(水)	午前9時	市役所 大和庁舎 旧議場 (3階)
7月	7月10日(金)	7月20日(月)	午前9時	
8月	8月11日(火)	8月25日(火)	午前9時	

農業委員会総会は月に1回開催され、農地の権利移動や農地転用の許可などを審議します。

※農業委員会総会は公開されており、傍聴が可能です。開催日時などが変更になることもあるため、傍聴を希望される方は事前に農業委員会事務局までご連絡ください。

農業委員会の主な活動

- ・3月25日(水) 第3回農業委員会総会 (大和庁舎)
- ・4月27日(月) 第4回農業委員会総会 (大和庁舎)
- ・5月25日(月) 第5回農業委員会総会 (大和庁舎)

お知らせ

4月1日付で事務局員の異動がありました。

【旧】 事務局長 荒川 稔 (転出)
【新】 事務局長 古藤 健一 (転入)

【旧】 主任 内田直樹 (転出)
【新】 専門員 樋口 一 (転入)

編集後記

雪の無い不安な冬が終る頃、新型コロナウイルスの猛威が我々の日常を更に不安にしました。それでも桜が咲き、山は緑になり、農作業も例年のように始まりました。この広報が届く頃は、一面の青田となっている事でしょう。

農業委員会の体制も7月から一新します。現メンバーでお届けする最後の「魚野のかけ橋」となりました。3年間ご覧頂き有り難うございました。次号からは新メンバーでお届け致します。どうぞ、お楽しみに。(編集委員)